府立だいせん聴覚高等支援学校
校長　塩谷　謙二

平成 31 年度　学校経営計画及び学校評価

1　めざす学校像

＝　聴覚障がい教育における全国の後期中等教育の基幹校としての役割を果たす　＝

【めざす学校像】
〇変化を怖れず挑戦する学校　〇地域にグローバルに開かれた信頼される学校　〇みんなが安全で安心できる学校

【めざす生徒像】
〇活き活きした活力のある生徒　〇チャレンジ精神にあふれた生徒　〇互いを助け、ともに生きる生徒

安定した心の形成（自己形成）を土台に ・ 地域とつながる ・ グローバルにつながる ・ 安全安心で
情報保障の充実した学習環境での ・ 基礎学力の定着、発展による ・ 進学、就職の実現
≪ことば≫ ≪たいけん≫ ≪きもち≫

2　中期的目標

（１）　聴覚障がいのある生徒一人ひとりの状況に応じた教育の推進

■　社会的自立に向けた教育の推進
・自律・自立心を持ち、実行力・実践力のある生徒、自己管理のできる生徒の育成を図る。
・自分と同じように、他者を認め大切にする生徒の育成を図る。

■　キャリア教育の充実、発信
・丁寧な進路指導と納得できる進路の実現を図る。
・これまで積み重ねてきた本校のキャリア教育の実践を視覚化する。

（２）　生徒、保護者の思いに寄り添う学校づくり

■　みんなが安全で安心できる教育の推進
・地域やＰＴＡと連携した緊急連絡体制や災害対応、不審者対応等の充実を図る。

■　地域とつながる教育の推進
・地域に根ざした学校づくりを進め、青年期の課題啓発・改善を図る。

■　聴覚障がい教育の基幹校としてのセンター的機能の充実
・地域連携支援室（D-center）を中心に、地域支援や理解啓発活動の充実を図る。
・学校紹介等の広報活動を継続的に行う。

（３）　ユニバーサルな教育環境の実現とより質の高い教育の提供

■　ＩＣＴ機器等(タブレット型ＰＣ・文字情報システム・電子黒板等)の活用を含む教職員の資質・専門性の向上（授業力向上、教材開発等）
・聴覚障がい教育における情報保障の充実した環境を研究し整備する。
・聴覚障がい教育における授業改善のあり方を研究し充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］	学校運営協議会からの意見

府立だいせん聴覚高等支援学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
聴覚障がいのある生徒一人ひとりの状況に応じた教育の推進	（１） 社会的自立に向けた教育の推進 ア　自律・自立心を持ち、実行力・実践力のある生徒、自己管理のできる生徒の育成 イ　職業教育の充実 ウ　自分と同じように、他者を認め、大切にする生徒の育成 （２） キャリア教育の充実	（１） ア・学習指導要領の改訂をふまえた教育課程の検討 ・自学自習、自立・自律を推進し、放課後学習等の継続的な取り組みを実施する。 ・教育課程に応じた教科書及び副読本の選定 イ・職業科専門性に応じた教育の推進 ・教育環境の保障 ・資格取得の推進 ウ①・多文化共生教育の推進 国際交流、高大連携、地域連携の実施 ②・人権尊重の教育の推進 人権作文、人権ＬＨＲへの取り組み ③・性教育の推進 （２）丁寧な進路指導と納得できる進路の実現 ・「先輩の体験を聞く会」 ・学年別職場見学会の実施 ・生徒の成長に合わせた職場体験実習 ・「障がい者就職面接会見学」（専攻科Ｉ年） ・進路説明会・保護者懇談 ・就職に向けての指導・定着指導・アフターケアの充実 ・大学進学者に対しての卒後相談	（１） ア・定期的にカリキュラム検討委員会を開催し、本校の状況に応じた各学科、教科新たな教育課程の編成を検討する。（年間 18 回実施） ・図書室の学習環境の整備を更に行い、学習の場として提供する。学校教育自己診断「図書室利用」（生徒肯定評価 40%以上）（H30　39%） イ・学校教育自己診断において 「資格取得に積極的にチャレンジしている」 （生徒肯定評価 70%以上、H30　74%） ウ①・国際交流、高大連携、地域連携に関する各生徒体験プログラムを計画、実施する。 ・国際交流については、「アメリカ手話講座」（年２回以上）の開講や外国人英語指導アシスタントとともに授業を受ける機会を年１０回以上設ける。 ・高大連携については、関西大学堺キャンパスとの交流を年２回以上行う。 ②・国語科を中心に、「人権作文」に取り組み、コンクールへも応募する。 ・昨年度の実施内容をふまえ、本科、専攻科の各学年で、状況に応じた「人権ＬＨＲ」を年３回実施する。 ③・性に関する講習会の実施（※本科３年生を対象） ・②③について学校教育自己診断 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」 （生徒肯定的評価 85%以上、H30 88%） （２）・学校教育自己診断において 「将来の進路や生き方について考える機会がある」 「進路に関する必要な情報を十分提供」 「希望する進路について丁寧に指導」についてそれぞれ （生徒肯定的評価 80%以上） 「進路指導は適切」（保護者肯定的評価 80%以上、H30 92%）	
生徒、保護者の思いに寄り添う学校づくり	（１） みんなが安全で安心できる教育の推進 ア　防災等の対応の充実 イ　地域とつながる教育の推進 ウ　「聴覚障がい教育」のセンター的機能の充実	（１） ・教職員が連携・協力した業務の効率化の推進 ア・地域やＰＴＡと連携した聴覚障がい者のための防災対応の整備・充実 ・生徒への防災教育の充実 ・教職員・PTA・卒業生に向けた防災研修の実施 イ・地域の方を対象とした「手話講座」初級・中級の実施 ウ・地域連携支援室（D-center）の活動の充実 ・地域小中高教員の聴覚障がい教育の理解啓発 ・地域中学校・高等学校に向けての情報発信	（１）毎月の職員会議で時間外勤務の状況を報告し、意識化を図る。 ア・防災委員会を中心に、災害時の学校対応について検討する。（防災マップづくり、避難所リスト作成、教職員向け防災研修　等） ・生徒の意識向上を図るため、昨年度の実施内容をふまえた防災ＬＨＲを年２回実施する。 ・外部に手話通訳等を依頼し、情報保障を確実に行う。 ・学校教育自己診断において　「災害時対応が分かる」 （生徒肯定的評価 90%以上、H30 98%） イ・聴覚支援学校を会場とする特性を活かした「手話講座」を年 10 回以上実施する。 ウ・地域連携支援室（D-center）を中心として、公開研修を年１回実施し、高等学校等とのネットワークを拡げる。 ・聴覚支援学校との連携を深める。（中高連携） ・外部講師を招いた教職員研修を年８回実施し、内１回を府内の聴覚障がい生徒に関わる教員に向けた公開研修とする。	
ユニバーサルな教育環境の実現とより質の高い教育の提供	（１） 職員の資質、専門性の向上（授業力向上、教材開発等） ア　「聴覚」「高等」「支援」学校としての授業改善 イ　「聴覚」「高等」「支援」学校としての「聴能」指導 ウ生徒の筆談力（文章力）養成を目的とした指導力向上	（１） ア・聴覚高等支援学校における授業改善に関する研究の実施 ・学力向上に向けたタブレット端末と文字情報システムを活用した授業研究の実施 ・タブレット端末アプリや電子黒板・プロジェクタ等を活用した「分かりやすい授業」の実践 ・表現力や記録する力を伸ばすための ICT 機器の活用、校内研修の充実 ア・ICT 機器を活用した校内研修の充実 イ・教員の手話力の向上 ウ・生徒の筆談力の向上のための授業改善 ・従来の朝ドリル（国語・計算・英単語等）を生徒の文章力向上の観点で改善・活用	（１）ア・授業改善に関する研修を実施する ・学校教育自己診断において「授業の内容が分かりやすい」 （生徒肯定的評価 80%以上、H30 90%） ・「授業で ICT 機器を使うなど、教え方に工夫」 （生徒肯定的評価 80%以上、H30 86%） ・生徒向け活用度アンケート「タブレット型 PC の生徒活用状況と理解度」 （生徒肯定的評価 92%以上）（H30 91.7%） イ・教員向け手話講座を年間 10 回実施 ウ・「社会で必要となる力としての筆談力養成」をテーマに授業研究を行う。 ・「ダイザップ」　年間３回以上発行 （※ダイザップとは、生徒の筆談力向上を目的とした、本校研究部編集の教員向けテキスト） ・改定版　朝ドリルの有効活用 学校教育自己診断において「朝ドリルは文章力向上に役立っている」（生徒肯定的評価 75%以上）（※H30 同診断の項目なし ）	